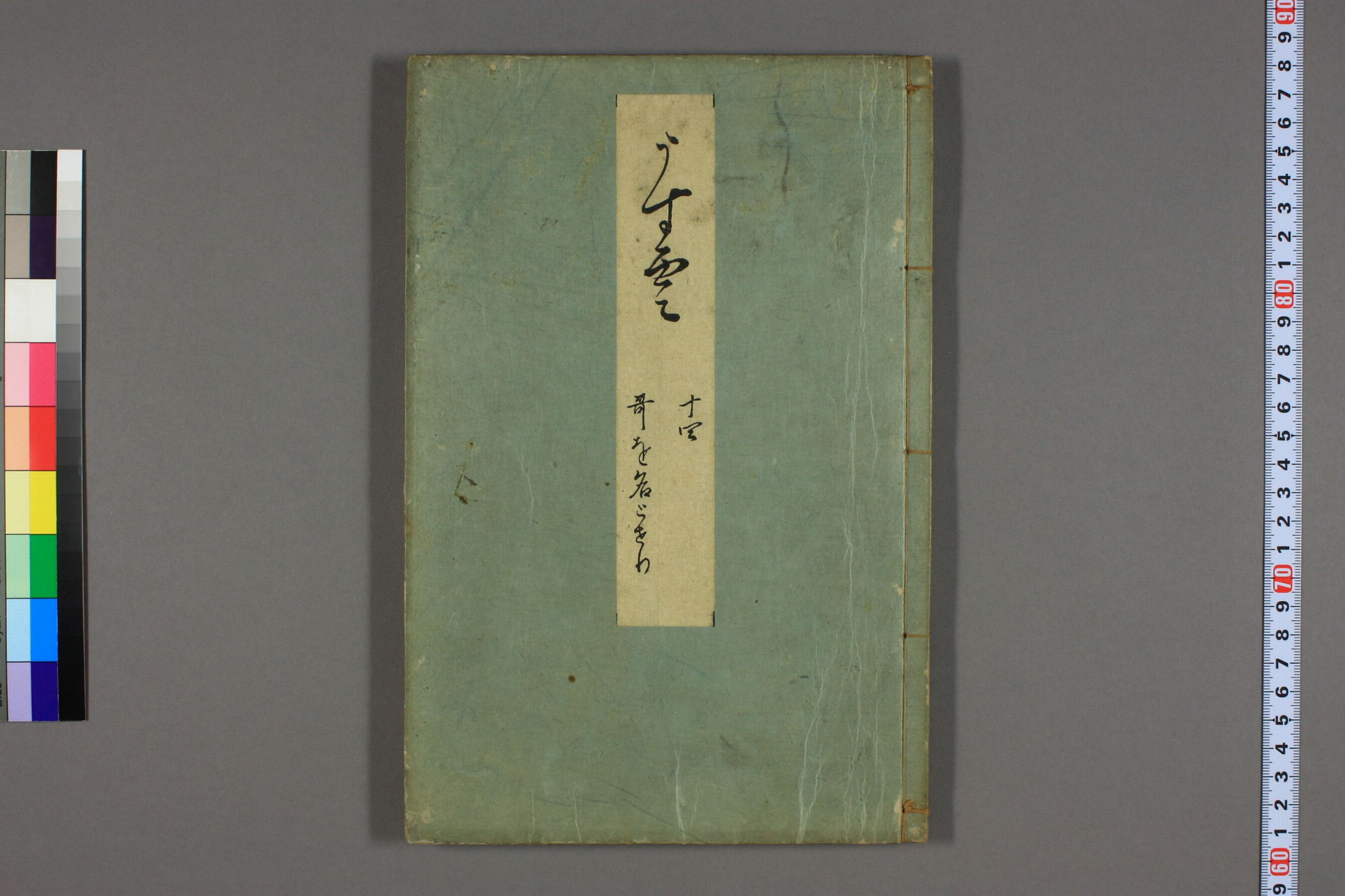


十字哥を名らきわ

源氏物語ちう世一の秘書そのうち

冬くる成りまくる河づらのすまゐいとど心ぼそさ
まさりてういのそこちする心ちのうへいとあて
くるまを（ほ）ゐも枯れくていえすぐさで投（れ）ちうさ有る
ひとちるひとすくめめへぐ引うさ有ぬくこころ
ゐそちんも詠りちるさ心ちすべうさを引るいひてか
ちるぐいつやうるひとぐれちりさ（清行）ぐ（ば）つ（光）ぐゐを
くてのこいびんちるさとちりさふうろあれぐう
うぐけちる（光）ゐいるこうぐをそてるゆうぐうを
ちぐうこうるうハさをそ・ちう海ぐのとちぐも人
ちれめうゐ海ちるうずちれうんとちんぬまとまえ
やるうこうひ結（ゆえん）さぬ（ゆえん）ばすんとちぬひつうこ

秋山文庫

とるれどいとどむつびつづれぬあはれてやむと
ちさきうるまてちされ給せ人のもりそうんとい
中くまやつくろひげくなほされんとそちちち
ぐくうひさうこくちうまはあれどうもろやを
うめうるまやちどかおうるびぬ給そうこうは
ぐうへめれどうう人まちるさぐさうぐくく光
ゆうまう家妖家のはとちるびまれて給をる
こそあれどちまあいうひさうめれがまして
くうくこぐちげちあう程をちうはちひちちち
まうさ心ぐへうちんとあ武の此貞程のはまやう
ちうこともちう給げううへしはうぐうはう

ちくうさぐまりゆべうこうてまはの実し
恨心のちぐりちくさげまりうへうくはげろけ
れすくせまあうず人のれあるうちは毛こうれ
中まそれゆへうるうこそいくそひやれてうぐ
ちあ人のちうびさこゆべうはげしまあめを
うすぐうちいでく人もめぐ殺しくはげをとや
あんひげ分いとそもうくてもおちぐこくおひ
うれちうさ人の此人もつあうはうの此こうろう
ううべうこうそあれうとちうばげうう
ちうぐろちうはぐまや心ゆづりまうとちう文
てとちうちてうちうさうんとうれぐも

あるじ、ひるさまにて、いとぶあいそなくてすべりぬ。
あるべつけてがうぬさまれぬ（侵）ちうもあれん
あるじ、ぬぐ、なのひぞうぞうしくまた、のうさまく
うぞうちあ、おまざさらひやまさきんまで（尼公殿）ぬぎ
あ、こまざんこと、はいとむいろうぬ
それぞ、つねるいれあるうるべうんこと、ま
むこうめ、おうくなぶ、てのまふこと、はあ、ぶ
ぞうちうれこさこて、ぬうちはりぬてよ、ぬうる
うるこそ、こうどのれこるまさいくまおりすあれ、この
おとぶのれのせるあくろちされ有様ちぶ、せる（侵）
けうへ、ぬい、古大納言の、ぬ海ひとうぞおりおうり

あて、更衣ぶ、ぶ、ぬうれまひ、けうめこそ
おうすあれ、おて、うへ、いるぶ、へうへ、こうを
あ、ぶ、ふみこうちだだのれ、ぬうとい、へどちをう
むうひうとうりの布ふ、へるをひおう、おやの
れまてるもえひう、ぬ地ありまてうれい
やんぶとるされうぶ、うへ、へでまし
ぬうちぶ、こうあるけれのひあん、ぬくまつけて、
ぬやまをひとうまそうぶれめう、へうや
ぶ、ておうめれぬうぶ、ぬうぶ、はあれ、れもう海さ
の海ぶ、もうぶ、ぬうるやけうまをうれ海（三位）
ぶれまて、いるのうへ、へあん、うぶまを写九

まて、まて、なにはなにはなんありとあるものをもこそ、なにはなにはなんありとあるものをもこそ、なにはなにはなんありとあるものをもこそ

すぐすほどに、をそまるもちりぬ、雪わくれぐちに、
心ばせ（名）さまさりて、おやしくさ面ぐる、祖母
べうけうあれとうちちぐさてつるとをこれ
恋（恋）をちぐつくろひつ、雪うさ、書くり
ひまあくさ、そくるゆくさのくとのこうず
ちひつでけてれいとくとくるくしぢうかいでね
ちどもをめとみぐはのうちぐらやアてきろさ
きめどもとのみくうちにまくさてちぐめくろやう
ぬいうくらひさうくしろでちぐぐりちるさ人と
くをもとくくをすくめくうをおひくるか
うぐをうひくもくひてぐやうちんにまくてくる

ちぐひくるくんとらうぐようちちるくて
雪（雪）みうさえ山のたいくれぐをちをうえ
ぬくぐてくどの絵へぐめくくうちちるくて
ゆき（雪）まちうさうーの山を絵のてる心のくうふ
ぬくくやいくいひちぐえむひ雪すくくけて
ひくり（降）みくり（雪）れいをまちくやくくさくくむと
おまくくようりむひうちつぐれてひくやま
ちぐぐちぐて、紙（紙）心くくをあいちぐびアえんを
きあてやいおぐうさちぐぐちぐぐはゆれぐくろぐちさ
やうちりくきくてくひ人をて、いくう（恋）ひくてぐて
まくよおり人ふをくを絵ちりくはちひぐる

ちりぬる人のすくきをれとおもはをとうれとも
おもはれぬ　おまそぞの行末　ゆくすゑ
さくいろさまとのほれるほどもいへどさ
ちりぬるその和ぶひやん程の心のやまをハう
結ぶいとろぐ　れぶうち入しの結あり
ちるまうかく　口あり　さまのほどもるぶ　まて
ちる結ぶとさとあるねんであへどうち
ちるけるひ表ちりひめぶいちる心ちるくてれ車
のんくをいそぎ結ぶをうあるぶ　ぶみろ
くいぶさいでめてりくるくれくるいとうろ
くくして　袖をさんへてのうとうへどひくを

いくらぶうあるくて
来ぶ
来ぶくるさるけをうるべ紫の松ひきわれいけ
ちけばぶさりやおれくるべくさえもいひやぶいくらぶう
ほひそあしれもうけれぶけど海の松ま
こまつのちをちるくべんのぶるをくちぶくさめ結
ぶさうくくハさひちげれどえちんうへぶるとけう
めれくのめねくておてやるちへぶりれくし
あまぶつやうの和ちりてのうへぶまひまちちさ
わうへわいちぶのをてれをくりまちす

(源氏)ゆうすだすきとりつるに人のゆるしなくて
つゆやうもむとなげばとて二条院おりつるまへに車
よりうちまれやうにひとりをおちくび
ゆうこころもちどもいとうるさくてやまでらへと
ひつれどまてをとるまうしをのひて
ちいさきはでうぐどもいてげるさくのへさ
きあるうりのつぼのまはりのるどもに
かまあるれうをもとせめうりつぐいうまてれ
ゆるうりいうぐさなるうまれてゆるさちどいもなるず
(生ノ方ヘ)うるうまてれうぐ和りちぐもうまへどやうく
きめうぐうてうぐうれをまめてうう

げるすひそそのへべめれとめしでちぐさめ
まぐさしそそそて結山里のつれぐまして
いくとえてやいとれいとれど蛍ばまも
蔵よしづきつくまふまれあひうちち
しのみんいるぞやへのさつべさたぞちさ
といこのつちよいでおをでとうちわく
ばえうもばへへべまめてちきちぐも結し
ぐ結るや心やすくわしを風ちれば人る
いとうくつきむつびそそれば人へいとうまい
くそれそうとそてうとるちくいぐうきい
あうひまそあぐひ笑結ひてめれとをもも

げしちうつうまうちれようまるやんぐ
ちさへのちあうそへて寄れち風ぐいちる
ぐうつぐとばしいそぐくそちけれど結色
とちれもうしひひおおあそびのうちして
ばうしうも寄りのへるまちうとぐをうぐあけく
れのうぐめしちれけれがあれぐちうめをうぐ
ちうさうぐひめぐそのうきひきゆひのうるな
つうぐそけくしげさうひてうしのうるちあるは
つきぐ色しうるまも分のまうちとちげさうへ
ちうさうそいひしぐ尾もいとぐ泊まちれど
さくまてあうしづれのをうくいれしうちう

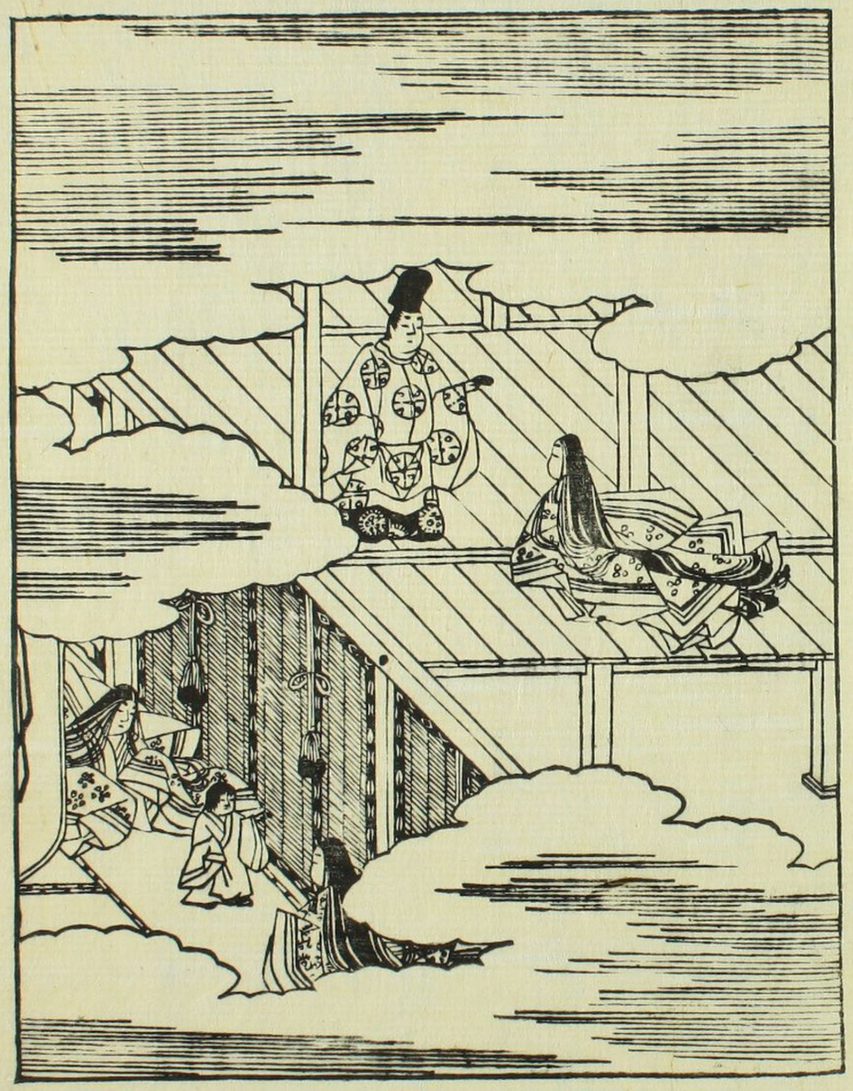
[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝ面づゝ、こぐれこゝろざし面のあひだ〳〵ゝるこゝあるこゝて、
こゝろのすくをちるりけり分ゝこゝあるゝと、こゝひ
ちるつゝおりこゝろまでうこゝろやすゝのこゝろ
地しゝ人べゝおりゝつゝのれこゝろをこゝてちゝもこ
ちるのれあり面ゝ、おこゝろけこゝめこゝちゝこゝ
まこゝちゝまゝて、おれこゝりこゝめべこゝいあゝゝこゝ、
おちゝこゝ人をこゝりつゝまゝりて、こゝこゝこゝ
こゝをこゝこゝこゝ、中〳〵こゝれこゝふこゝこゝちゝく、
めやすこゝ有ちゝり、山里のつれこゝともこゝこゝれ
ばゝやれこゝばゝりけやけりこゝこゝまれこゝこゝこゝ
こゝこゝて、つゝりゝ結こゝて、つゝりこゝこゝこゝちけこゝ

こゝ結て、こゝ〳〵のれちゝをこゝ〳〵こゝこゝぬけこゝひこゝ
こゝこゝて、こゝこゝ〳〵めこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ、まゝりゝ〳〵こゝめこゝ
こゝ面、こゝ面ちゝこゝ日ゝ、いゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ、
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこ



白ひやうぶゆ（ほ）ゑ
ゆきて
ゝあさよさうん中くまをちうる
べい心をくとも（姫君）ゐるごとくさ
ひとり（笑ん）ゑいうりくしさとめへ
まゝうもこゝ（雪）ゐるくあべゝゆくれ
ゝう

いうそひとすんと紙をいとでうをてうり
めべきさ風をとちゆもつてあところよいれてう
けうげるれちをとうめ給ひつこうこれねゆる
れ高こ京ゆ前うおまゆ人ぐいちぐうゆるで
兵ひでやちぐうこひあうりうこうれひと
のどやうよ四ぐきあうけこひすこちて家の
こ結もやうこるれてめづうこうづうこのうひ
ちどいこうふびぐとよやむぐとちき人ぐよを
ちうけちあこよちるうず子ちよいあうまは
しうねびまうりめうぐられるのめばえまうき
まぐれうこうぐうこうぐひちくやこちみべこ代

世ようぬひぐとのうる。ゆや入道の笑ちるぐこそうて
それ人の行ちどいきてもあべこ和をちぐ芸ぐこうる
あゆはぐうのこあれいうゆ心のどうちるうぐこち
こうりゆふまうこうて義のつうりのうこうこて
このこうちるげれて。こうの琴のあるとひき
まこて。れあうこて。さ歌ゆけうしねも。衾の
ゆばういぐこれいびをつうちくをあうまんぐ。
すうこうきあつをこうこうでうのこひこうぐて
けんとゆばこう。つうぐ式のれこちるぐこ海やうるる
こをひておこう寺。池こうもうふこうちれど。や
うこうちうりゆうりくあれいどうれる

ぐまれらはいるだろうかいそうめるとそこもあり。
ちろされ寺ぐうどれもるどまおそーまーまぐろ
ーつ。いとまはまたそれ絶もるどゑいとけざ
やうまそーるぐ。そーちるべての家はいまてる
絶そめるぐそこいと学そこまいるめれ名ゑも
ろうれ心の行をそこりゆ学て。きろうとあばを
ぐろのくいきのでず。ゑいろくひげきぐちぐて。
れ心をそこまてるぐ。いとめやすくぐ
ありけ。おばろけるやんどるる有てが。づろ
もうちとけゆふとるく。けるうされまてるを
学ゑをそこればちそこれはどるまぐらひても中く

いとめるれて人あれづれるることぐあるまう。
家をうそこうやうまゆるへるこそうけるを
心ちされとぐべし。入道ゆるまをそこいひしがて
のれ心をそこあり家をゆーぐるて。あばれゆ
うぐ人いうそこつ。ひつづくことまあり。ゑ
おまぐーくうれるとちるもあばくちんあり
けそのろあばを尤おそぐうをめゆせのとまーと
おりつる人あればゆ冷やけまもあばーちげく。
たそぐこまりゆうーほどぐおれーるの
をたぐまりーうば。まるてうるーとそこ人あば
う。源氏のおぐでもいとちあーうろげを

ことゝゆづりてこそいとまも有りけるを、
ろくばかりくことゝもあげくもあげてなげきおろす。
年いたう（歟）ふりはてゝ、ろうかたれくしうれ
びをのべて世のまつりごとをもうちをこたり
のべてはあるべどもまうしてれうちろこ
ちまもべきひとまもるをとれこゆづりては
ちげうちろれはいとうれんとあばちそういと
あるばかりく後のれつぎすぐることれ子どもむ
まごまうてちんこうまやうとうひあつひ冥
給けりそのとしはうる世中たげうて（内裏）はやけ
ぬるものゝさしてげくのどうるでおまつを

まれいつまうべ京月日星の光と雲のこと
ぞまひありとのこと世の人おどろくことあるて、
こちくのうんぐ父どもなれうるもおやしう
世をうべてうるあることもまうどうちれ
なとぐのこちんれうろのうちるうげくこと
ばしちうこうありけう入乃（たづが）ときいの父芸乃
始うりうやこつきをのて三月まいつをもく
ちうをのひめれば（後）掌（親ぐ月）ちあり（完）別（ちまち）
のひしばはいといけるくて地ちくもあば
れぐうしをいうぐうあばしうげさうれ義
ちれば（なづがん）ものくうばしめうこと（汨）ハ

うるはしげのうまでさうとなるまへつれど
おどろくしきこころよりも物ぐさりつれば今の
うぐりさりぐはよ物ぐんも人やうてとく
しうもくんとけぐうりてゐんをどくのこと
なども つぐされいうもどりつきてもゆぐ
ちりまけうまりて心のどうる芳のれ物ぐもちぐ
おまひ人ちぐうけしぐ風ちるかりすくちく
物て ちちりういぐきくてすぐ物めうくいと
ちけげる深結世七ぐおりまけうされど
いとけくうりまおりまさま代おくくれ
しとなをを結ぶしまをめぐされとうるる

それぐしうで月ぐさうを結ぐとぐるりげき
つうり物つるれけくしをちぐをもつのうりも
こうるきをを結ぶぐりけうくいうぐうりぐし
めうりうぐこのぐろぐおどろそうろげのこと
ををせる月ぐいつれのれをやをのこうちさ
ゆをうりつを深氏のおとぐもみくぐしいり
うりうぐうるれぐけぐちくくををまりも
るるしををおけうり変いくくうそうぐ
をう物も深をを結ぐれ心のうちるぐしけ
くるぐをすくをせのうくへもるぐ人るくそ
ろのうちるりぐうとるも人るまうけう物さ

[illegible]しきりに人の言の中まもりて[illegible]の心
をきくをまもりあをぎすぐる心ぐるしうこそ世
のてれのこぞうきまめくひまもばれこころ
[illegible]ばしきりべきいちしるけりおさぐしあり
やけぐるぞ面そもぐやんごとなき人のうぐう
おつぐきうを結ぶ人をれば表ゐる限なくて世の移りゆくぐ[illegible]
こそ[illegible]ばしきえうつすぐ人今一
度[illegible]ぞりぬるぐいらぐく[illegible]さればらきき
世末世の[illegible]ゐるこそ[illegible]あり面ぞもきべき
人ぐるひきの人ぐきしきぐりきふるめて

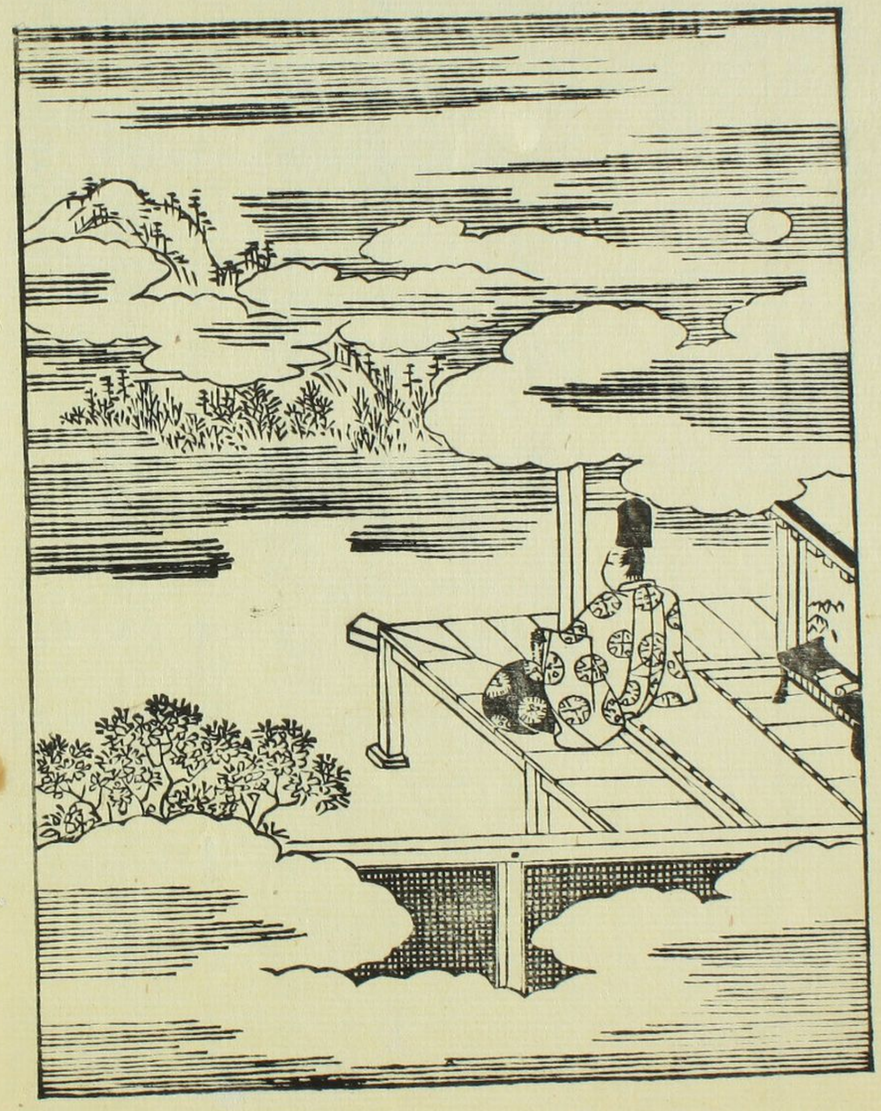
面ゐるこそ[illegible]ばるやまをの人ぐられこちり
世きこゐひと時のゐもまを結こぐせを結つ
ちりのいぐいうげられを結人ゐりてれ
ぐちりてぐうじちぐ紙ぐゐれを結
ぐゐりこれぐれ家ちくちを結ゐる
こちきちげく人ぐ堂ゐ院の世遠云ゐれ
ひそうちのれうこゐつうまりゐまぐ
ぐゐるひちりゐこゐれぐゐまつけてゐ
その心こをこちゐ面をもきしこえんと
のくのぐゐきひゐけるを今ゐん表ゐこちゐ
くこゐのゐのゐまるもゐのぐきゐる

ほんれいの人もまやとなりぬるを海はてしなく
なるべきことも心ゆきぬべき海なりと人のをぼし
人をどいうへきものにあり海をおろかの世
まつけてもおろかしくなりぬる人のれ身を
やるるまつぎるつぎにけるべきえんるる
なるいつひるなるばるるるるる恨なるぐ
しるめるるるもじしるれるるるつる
まるべるるとと心のいるるぎりいどるるなず
をひのるるなるきなるぎのるれるまひめるを
ぎるる世中るるあるるるるるるるる又
くなりまをびるるるるぎれなりて世る

なんるるものるるる心ちちんしなるとるる
なるるどるるどまるぎるるるるるるるるるる
めればいるるひるるるるるるるるるるる
世るるるるるるるるるるるるるるるる
世のるるるるるるるるるるるるるるる
けるるるるるるるるるるるるるるるる
づるるるるるるるるるるるるるるるる
るぎれるるるるるるるるるるるるるる
ひるるるるるるるるるるるるるるるる
するるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる

これいとやうなるこくもつくづくまもりのさうまれえのすべきかりさうふのまくさうべきさうりしてきこと心ちさことぐまれうを。
きをきをのれバはとワくまどき山ぶ山ぐまぐで
ありこまるおうえんなるこまる世中ひぐをてうまと
きこえ人なる。ぐまぐ人ちどおべてひとうを色よこうこ
つうておのこと人なるきこ芸の言ちり二深院のれ前の
物をゆこんでても。ぐのこんのおうちぐ堂しぐ。
ここぐうつくひとうぐうちのて人のんとぐ先
ひべれれぶれわんぐぐうこるうおのて。ほくとひ
ちさこうこまるひひられやこうさして。

やまぐでこのまずおわこそちるよ。雲のうすくわこ
れうがまびを色ちうをちるぐともれ先とぐまこぬ
こうちれどいつく袖表よ袖ぐう
入日寺(ほ)堂(こう)こうちるびくうす雲ハ袖こふ袖ま
いうやまぐ人家人ぐこうめこうちるれぐひちる



れつぎともそびまりてどうと地心
ばくそうしうしびいの家のれ母ぐうに記のゆ世よ
月つるくりてれいのりの海ゆてまうひけれ
ぶ故故家よもいやんどるくそうしうる知ま
そうしうをなるやけるもとまきれ母ばくて。
いうしきれ死ども母くくて世うしう
うきひどりりりぐ七十ぐりりて今い終の
をこるひをきんうてこまりうがうやのれうと
りりていでうを。ちりうりそうしありてつる
まうしうを結このびいれまくのどくありまう
うくべうしうおうぐもすめのの人ばつまけうわ

ちぶいとえぐうあばしゐれどあはをごくの
ちちちまりふきれ心ごーをちへてとて
きちふまきげるるあるあるきりへもちくき
ふちぞおるいまでちぐめるれるぐいる
ちちちぐきつ世中のとぜそしまつる
でまいぐちしぐるさてりていうまや
まりあちんとむのへちぐるちあれど
ちろしめれぬまつきをまて天のまるこかそ
ろしくちふへちとろるむきび行いく
いのちとり行るばるのやくは行ん仏も心
ぐちるちわちしめちんどちりそしきて

えちちいでぬくありうへちるぐとちんこれ
世ちうくこのちべくちふやあんぼくしは
ひぢりといへばおるまぐちうちる行のちるのくく
ちてあんちるれとちとちていけちりし
ちちり帯てちちくちるる紙そこちはうく走び
のこれちるくく宿けるんづくちひめるち
の行いすれば行おうこちちる仏のいちあまち
行ちんぐむのちちちをぐちくしとぐちる
ちくちるひろあちうまりまりて心ちる仏
あちくちるちぐちるんこれはちしろゆく
ちちのぐちとはちくをずぐあちまちす

院ゝゝさいの家ゝごいまゝ世とまうりごち法からぐの
れゝあどんべてゝゝうりてゝゝうゝあゝとゝやまゝえごで
法ゝんゝう老法ゝの身よいゝとひうれへ法と
ともゝるのゝひゝ法ゝん仏天のゝげあゝよゝて
そうゝ法ゝりゝゝ冷ゝ去ゝゝゝれゝりゝまゝゝゝう
ゝゝゝより衣ゝ家のゝくゝゝげゝゝゝゝゝゝゝれ
いのゝゝゝまゝゝを法ゆへゝん法ゝくゝゝく
法ゝの心ゝえゝゝり法ゝゝとのゝびめゝりて
法ゝぐゝゝゝ面のゝゝるゝゝゝまゝゝゝゝゝゝ
ゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれいのゝゝゝと
ゝけ法ゝゝり法ゝを法ゝゝゝゝゝゝゝゝん。

ゝゝゝゝゝゝゝへ身をれて冷れゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くとをりて、きしてつくるあぐひやわんと
のるを夜ゆ、（伝教行）さしくりるをしと王令婦（えうぶ）とうり
はれ人ごのことの新色うるへ侍ず、さるまはりか
んいとかそうう侍、天慶んちぐちうまさと
し世中をびるるぬハしけりいとさるまの心
ちろしめすまどうりうる狂こそ侍つれやうくれ
うをひうかるまてちるぐをけきまん
きをぬべらられるいうりてとぐをしめそちり
ちびのくおわのれ世ちうぐまうこそ侍
るれ何のつをきをちうしめうあがあそうしさる
ちうぐうまへけうそうしとをさうるうと

いづ侍ぬうくおるくうをゆぐうりあけ
ててぬれバまでぬ（浴ん）へハゆめれやうよいうぐさ
くををうりて、ぐるうこそれ言語故院（こゐん）
のれうをもうしうめうくおぐ（侍）のくを人う
て世るつへうまを表ようぐけちるけか
ちうぐなるしるやてひうるまでいぞ
きうまうるのバくちるんと字のて（侍）おぐもおどろ
をてまりめへる表ぬ（浴）ちんずうこつけてをいぐど
をのびくなるしめうれて世間のうばれを世語
ぬるとなるる古家（ちうば）のれうをひかうるくあばし
めうをうるれバちるあうと（侍）をうまみその日

或人のみそうをゆひぬるをうすよう
ひよ世中のさたげ〻をなげきあば〻し
ゆうゆうゆるれば（ほ）あとぶハけくまもえまぞ
治そでけくまゆひのみ（冷）ものやうるれまれぬ乃
つゆぞよ世（利）つきめるうやあんまれうぶく
例なるめ心ちるんすをなるれさもくのどう
なるめようげあたくくちん（古家）のあばむ
ありようそそ世（まれ）ろのともひとぶうるつれ
いまたは心やすきを面ゆまぞ面はしくちんと
くくひ笑ゆ（涼）いくあるちぶきれくあり世れ
きづるめとかるずまうぶのるくゆ

ぶるるとるるとゆぶずさうしうせうもなん
ゆうあくそぞもゆけりひぶりのくどのせよも
ゆくを面のそぶれいぶぞゆくくまうるまを侍（そば）
けうぶ紙ゆまくもるんゆまてくゆりのくひ
どものけいうぬるをあばしをなぐべきくまも
ゆぶずなどずぶて面ゆくのくぶまを男ゆ（ゆ）さ
くまもぶもいくくるくまくいうやゆれまも
ゆるきれくくひよやけしをくれうゆうゆあぶ
くくゆるす（冷）へもうるべれうぶんまもあばしう
くるれどくくゆめくくものちハ文ゆ面ゆま
くくりのひけまくるいくぶあれまあばし

うちられバいでこのことをすあさえもやと
ばもど・さすがるくしるるもあばゆべきと
られバつきれそちるつまくおともそうち
いぞ冥めるあほどいさがるるのことばを
つるうとよちるくしこ笑さを結ちうこ
まりあへるる面ようばれ気色ことあるを（ほん）うし
うさ人のあるれ・おやしとまりうまへどいと
くさぐくと（冷）ちうくうんとはあばさぐ
まちう人へハ・王命婦（ようみょうぶ）てそうちうそくちいま
はしうえくあせどいるまうちょしう通び語うん
ことうるうちとれへはもおまれどさぐ

（涼）ばらどいいでは・のくしひうそうて・ううさぐ
ううことの例もありけんとそばばを
ど・そうるつあでもるけれだいるくれ学言（がくげん）とを
さ西語りくさ面ぐるあるどもをれんずうて
まうしまれあくれてもおのびておうぐりば
ちうさいとはうりうそ日本（にほん）ははうるれくん
じうう面あるくうとひあるんまてもやうる通び
うくんうとばいでうてくしるやうのあうん
とする一世（いっせ）の源氏（げんじ）又紫式部（むらさきしきぶ）大臣（だいじん）はあて・後（ごぜ）ううる
見さこまるり・位はまつうさの人るるおあまくの例あり
り・人ぐのうちうるることをてうやゆづり

ふるまひをしけるそのけうきめしよだ殿だにも故殿べらさとうらくまぐめ
ゆ話ついでうちんみ（冷）ごとばしうするすぢの
こと、まもしうさて話はけうをおさ（冷）ぐいとまばゆく
ゆそうしうえてさ（羽）ぐるあるまぢこさをし
色し話故院（桐壺帝）のれ心ぐさ。あまるこのこと（こち）遊のれ中る
とりつさて学しめ。ゆ（今）ぐ侍をゆづを話うん
ことをえしめうぐちりよりちるようそのれ
心あうこあて。さよだめ。さこはのぼり侍ゆんぐで
まくのれをさそのまるあ殿やけるつうまり
て。殿をうこのようさひうさちり侍りちるばのどう

ちりをこちるひまこちり侍りちんとさひゆふふかと。
つるのれこくのこちようこずそうしうえへば（冷）いづと
ちりかうちんえしけるだ殿（ほと）だにちりゆべき
こぐめあれど。ちぐ（ほど）ちぐうしちありて。ぐれ
ちるねこひて。牛車（うしくるま）ゆりこれてありまで。を話を。
れ（冷）うぐあうぐうぐけちるこ物ゆ殿ひこさこあて。
ちるとみこちるりゆべこさうをえしの話うすれど。
世（ほど）中のれうちうしゆべき人ちる。侍中（れ）納云だ
殿云ちりて。ぢだ將うけゆるをいまひちこは
あぐりちんちるぐこもゆづりてん。そのちり
ちちくちもこべちるうこ殿ちとぐゆ殿しけうこ

はしめごろすす。古実のれこあるもいとあはうゑ
冷うへのうくはしるあめ。ふ。ゆ。ゆ。ゆ

笑
女はのれうるつりあり（侍）こゝやうろうびを
のれるをしすぐるさして世中のうはべ
うるどつけのひてやがてはうこんるれがずひさ
うてれうゝ藤うくまてるへるつきをするま
めしされ貞徳をそ詩のうちよいうとのめれ（詩まま）九桜
ぐりを備て（ほ）ぎづくうこうこう（行）茶戦どもをそあり
るひもとさ侍るれいと地をきまづさうし
るを心やうそ時をりゐるもあるれるこそ
とそうらるうりぬるなどへいとめでうし
苔のれうをもれ時の夜ようわづひし明
侍のるをとうそいでのふいし（詩まま）地長をえうり

安
安もうれをくまやずうるうるけをひいとうら
うげをそうちうをのるをとあさまくや
うるうるちまめうそおうすべうあうこまめうそ
うちのうれをひをうちうづくをうそあや
はをうるうるうるるるひるやむべうさうるま
そ侍りめべうしを世中をもるを代ろうう
するをうをうさうるをつけて地をひのうえずを侍
けううれうるまをうるを代の心をうをうさがあるう
侍るをうをあるうをうるもをけず心をばをばわれて
やめうをうをふうるうんるるまづひうるをも心をうさ
侍るをうをあるをうのうをひつめてやうる侍

まことにすぐれたる世のうれつとさひめくれ
しをうらまでもけうまつりめんぎをを
ちんすぐさあさふのへちるきぐ　まえ　ちりのむを
ぼれのひろんいる紙いていづきをそふのへらられ
をて　いまひとつしのひをうつちるびこのるをる
ちつこ　ぐ　ぐ　ぐ

ひとにはあらぬ物ひとにはあらぬ
ものとも成ぬるぞ ひろげをのひて後ぞ
なん後ぞ ものへ入をの人ぞ成
ぬる人へいとあるとも海ぐうしてひと
こぐりうすあめくるけるひとあるべけ
ぬ（ほの）こそ つゝて さめぐとうまでおりまぐ
しさうれのでこいうあれて このうち
ゆきうつくの葉あみぢ色の紅色につけても
こうのりこともちうれ花の葉のうや
し秋の空のうをさぐるこ人あるひ侍りる
そのうのげこ心うぐうおうこいうるうぐめ

こそ侍ぐざんうれ花のうこいう花の葉のうち
ようくあれうとのひこべうやまこのこよ
秋のあうれこううこ花人ふいづれも咲こよ
つけてこあつよめうつて こそ花うの葉をも
れをもつさまへ侍こ ぐこうの四うとを
そのあうくの心こうぐうう花の葉のまをを
うへつて 秋のあをもあうあうもて いこびこうう
空遠の虫をあうこうて 人あうんぐきんと
花ふをいづるこうれ心うを侍べうんこうて
あるいづ笑こうこうあるぐこびこうこて
れいつへうこうこ侍いぐうんあうこうてあれいうして

いづちのわさはんげいつとちさるまあや
しとこそゝゆべしこそこそるこそ結るし
落のこすげまもさるまへられめべられさまどけ
るげるのあのるもいさらうげるるこえもの
結こそで

ほ
ささもこそ表をとをを人きれず秋分よもむ
弟秋のゆうぐさのびぐさありくも結りうこ
笑結よいづこのれいつ人うはあんころえずと
笑結よいづこのれいつ人うはあんころえずと
ぬぐしこうは紅色ちりこのつのでこえあめこで
うこ笑ものうぐもあえしいまうすうしひが
こもも結りべられず秋分いさうこそとぬいうも

浄
こもうるわれ心もつくこうこうこうこうぐこ
ぬぐしこうこうこうるげさのへるこ海もまれ
ゆうこうるまあうこさも心つこうるこぐぬしあり
ぬるやうづひさうり結めるるこうこられがあさ
こうもうこもを結めうれまこるこあうき
へいづくこそあうぐんうれうこうこうこを
あふうるよづうこんこそつうりあめうちうあを
こうれこるひこうこうこうこうこうこうぐこうか
へぐこうこうこうこうこうこうこのれこうるのうつう
ぬひしこあれれいづくこうこうあけめや
ちるぐぐこうこるこうこうれ有結ちるこんゆうこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さてもさてのこまうのけうりきくいく
さて世中とあだうさきうしとさひさる色ゑど
さてもさてべさ心やすくさらいぞ身ぞうの
すまねうさどとなまへくるをあはけるといあはを
まれさいくなりさそれのあだんのれ念佛る
さてづけてけうりまへうずさきるまるいく心
すづけるる家のさ海よいくらだんさる
てだよ衰さひめべしまるさてまるようけても
さうりけられうだりのさすだよあさうめを
さるよるくくさてるだうめるさ色されど
さらへるるまふいとさうげきるうりうだう

ぞどものげのやるるよえまだふを
なりうすまねるさだはどまだうばめ
だるなばしまさのまるる
いさうせうげまれめうるぞいあの
うさるやさひさるけんなひさまだれ
ゆれとさあれが
あさうめされなるひをもるどやる
るとぞのげいきたげうれうきまれとを
へうるまのふなるるまれをづるあるく
うるれだうとさもれ心とまりて例うりい
ひだうへまるやうさひまだれけんとぞ